

〔關岡家始末〕一永正七年八月大和國筒井某甲ヨリ勢州河曲郡神戸ノ關家へ使アリ、
 〔安齋隨筆^{十八}〕洞津。武備志に洞津の字を用ふ、日本紀安濃津なり、作者洞津の字を用ふるは非
 なり、國字の安濃津の字を用ふべき事なり、

〔勢陽五鈴遺響^{安濃郡^四}〕安乃津村。本州中央ノ府ニシテ東海及諸道ノ大神宮ニ詣ズル官道ニ
 シテ、滄海ノ瀕ニアリ、北ハ奄藝郡ニ接シ、南ハ一志郡ニ界シテ、本郡及鈴鹿奄藝一志ノ鄉民ヨ、
 ニ聚テ山海ノ産ヲ貿易シ、志摩州及尾參州ノ海舶ヲ纜シテ、海錯產物ヲ交易ス、故ニ其地豪富商
 民多シ、

○按ズルニ、阿濃津ノ事ハ津篇ニ在リ、參看スベシ、

〔勢陽五鈴遺響^{飯高郡^八}〕松坂府。本州激奥ノ府ニシテ、東街道及諸道ヨリ大神宮ニ詣ズルノ官
 道ニシテ、東海瀕ニ邇ク、北ハ一志郡ニ接シ、西ハ本郡及多氣郡ノ山嶽連綿シテ、山郷ノ民聚テ、山
 河ノ產物、薪炭山菓等ヲ貨易シ、南ハ飯野郡ニ接シテ、村民會シテ、米穀菜蔬ヲ鬻グ、東海ノ漁民ハ、
 魚錯ヲ齋來テ售賣シ、其地豪商富民多シ、其防間ハ、北ハ坂内川ヲ限リ、南ハ愛宕山ヲ限リ、凡テ南
 北十九町餘、是堅町ナリ、東西九町餘、是横町也、民屋二千三百餘戶、男女八千三百餘口、^略中舊ト此
 府ハ、天正十六年、蒲生飛驒守氏郷本郡^{志^郡一}松ケ島城ヲ此地ニ遷シ經營セシヨリ、其民家毛從へ
 遷シテ、今ノ府城ノ坊間下ナレリ、故ニ蒲生家領宰ナル近江州日野ニ比シテ、日野町ト稱スアリ、
 〔勢州四家記〕蒲生飛驒守郷^{○氏}ハ天正拾六年秋、松ケ島より飯高郡四五百森へ城を移され、松坂と
 號す、

建置沿革

〔日本國郡沿革考^{東海道}〕伊勢國^{朝國^造記云、權原^{定伊勢國造}}、大國管十三郡千三百二十五村、

桑名 百六十九村

員辨 百六村

朝明 六十四村

三重 八十九村

古事記云、倭建命到三重村

地謂^三鈴鹿 古府治 八十八村

河曲 三十八村

安藝^{六十一村} 延喜式等

安濃 八十五村

一志 百